美容医療に関する課題と解決に向けた取組等について

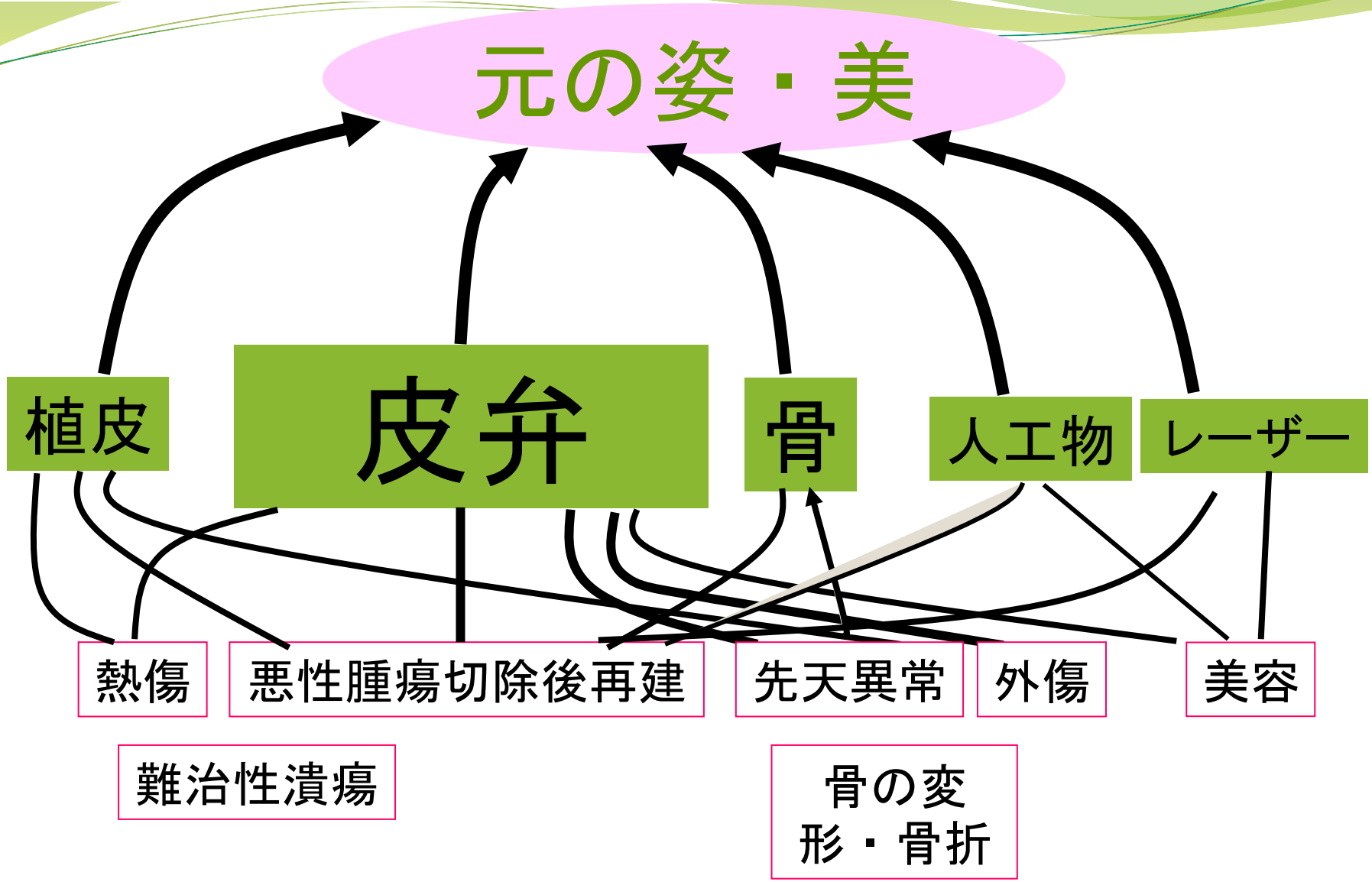
一般社団法人　日本形成外科学会理事長　貴志和生

目的

外科的手技を用いる美容医療、即ち美容外科は、形成外科診療における重要な一分野であり、形成外科医の中で美容外科を専門とする医師で構成される社団が一般社団法人　日本美容外科学会(以下JSAPSと略す)である。一般社団法人日本形成外科学会（以下日形会と略す）は美容外科に関わる様々な問題についてJSAPSと共に検討を重ね、形成外科専門医のなかで特に美容外科に関する専門的技能をJSAPSが認定した者を美容外科専門医（日形会内では美容外科分野指導医）とする専門医制度を構築してきた。昨今の美容外科に関する諸問題は、施術者の専門性の欠如が大きく関与していると考えたからである。

「美容医療の適切な実施に関する検討会」での今後の建設的な議論のために、日形会とJSAPSの取り組みについて紹介する。

形成外科・美容外科



形成外科と美容外科の関係

異常

組織欠損

→

正常

左右対称

→

美

形成外科
（保険診療）

美容外科
（自費診療）

【人材問題】

臨床研修修了直後に直接美容外科へ入職する（いわゆる「直美」）医師、あるいは専門研修を早期に中断し、美容外科へ入職する医師が増加していることは、下記の点から憂慮すべき問題と考える。

１）日形会は形成外科医地域偏在を緩和するため、日本専門医機構の指導のもとに、充足率の高い都府県の形成外科専門研修プログラムにおける専攻医採用にシーリングをかけて調整を行ってきた。新専門医制度開始後６年を経過しているが、その効果は限定的である。

美容医療への人材流出は、形成外科、皮膚科だけでなく、全診療科で生じており、連携しつつの検討が必要である。現在の韓国の現状は、同様の問題に端を発していて、海外でも美容医療への人材流出は問題となっている。

【人材問題】

２）患者側からの、軽微から重篤な合併症に対して、治療を行った施設で対応できていないとの相談事例が多々存在する。

　日形会としては、形成外科は、保険診療として主に外科的手法を用いて疾病による変形を正常な状態に近づける仕事を行っているが、このためには臨床解剖学や創傷治癒学を基礎に学び実際に多岐な手術を行い、これを習得する必要があると考えているため、これを習得した者に専門医を与えてきた。同じ基本手技を発展させ、自費診療で正常な人をさらに美しくするという美容外科診療を習得するためには、形成外科学を習得したうえでないと安全面を確保できないというスタンスで、JSAPSを作った。

【人材問題】

日本形成外科学会としては、解剖や創傷治癒の勉強・診療の研修を積まないで美容外科を行うことは避けるよう、まず形成外科研修プログラムで研修を積むことのキャンペーンを行っている。

形成外科や皮膚科で研修し、専門医取得直後に自費診療を行う美容医療で開業する医師も多くいるが、１）については専門医取得までの間に、保健医療に貢献していおり、２）については対応能力がついているので、これを制限することは困難と考える。

【人材問題】

JSAPS専門医は、形成外科専門医を取得した後にさらにサブスペシャルティとして美容外科の修練をめざす医師の集団なので、その意味でも美容外科を志す形成外科医はJSAPS専門医も取得すべきと考える。さらにその実現のために、日本専門医機構のサブスペシャルティ領域として早期に認めていただくこと、専門医取得のインセンティブとなるようなルールの検討が課題となる。

【合併症問題】

医療における合併症は一定の割合で必ず存在し、その対応は合併症が発生した医療施設が責任を持って対応すべきと考えるが、美容医療クリニックの場合はそれができないケースが存在する。

合併症には、ショックや重篤な感染症など生命にかかわるものから、失明、組織壊死、瘢痕拘縮など重篤な後遺症を残すもの、傷跡、炎症、色素沈着など醜形を残すものなど、さまざまであるが、その実態が明らかになっていない。

【合併症問題】

美容医療の合併症の治療に対応できる医療レベルに到達するには、解剖学、病理学、創傷治癒学などの知識と実体験が必要であるが、「直美」を含めた、形成外科、皮膚科の専門研修を受けていない医師は、それに対応できていない。